

3 正しい情報の収集と活用

地震や津波、浸水被害により石巻市では通信機能の多くが失われました。通信設備のある通信ビルと各家庭を結ぶ回線が切断されたり、電柱が津波によって流されたり、地盤沈下によって傾いたりしてしまったために長期間にわたって電話が使えなくなりました。また、女川町や南三陸町では通信ビルそのものが津波により全壊してしまいました。全壊をまぬがれた通信ビルも長時間の停電により、機能を停止せざるをえなくなりました。

○平常時における情報収集の手段として、どんなものがあるでしょうか。

災害時には、上記の他に防災行政無線や災害用伝言サービス等も使用されます。災害時の混乱した中では、誤った情報が流れやすいため、正しい情報を得ることがとても重要です。

○情報が得られないことでどのように困るのでしょうか？

気象庁からは日々様々な気象や災害に関する情報が発信されています。

5段階の警戒レベルと防災気象情報

警戒 レベル	住民がとるべき行動	市町村の対応	気象庁等の情報				相当する 警戒 レベル
5	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	大雨 特別警報	キキクル (危険度分布)	氾濫 発生情報		5 相当
〈警戒レベル4までに必ず避難！〉							
4	・過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況。この段階までに避難を完了しておく。 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。 危険な場所から全員避難	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	避難指示 警戒情報	高潮 警報	高潮 特別警報	※2 極めて危険 非常に危険 氾濫 危険情報	4 相当
3	危険な場所から高齢者等避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせは決めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	※1 大雨警報 洪水警報	高潮警報に切り替える可能性が高い 注意報		(警報級) 警戒 氾濫 警戒情報	3 相当
2	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により自宅等の災害リスクを再確認するとともに避難情報の把握手段を再確認するなど。	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制) 第1次防災体制 (連絡要員を配置)	大雨警報に切り替える可能性が高い 注意報 大雨注意報 洪水注意報	高潮 注意報		注意 (注意報級) 氾濫 注意情報	2 相当
1	災害への心構えを高める	・心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認	早期注意情報 (警報級の可能性)	「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成			

※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

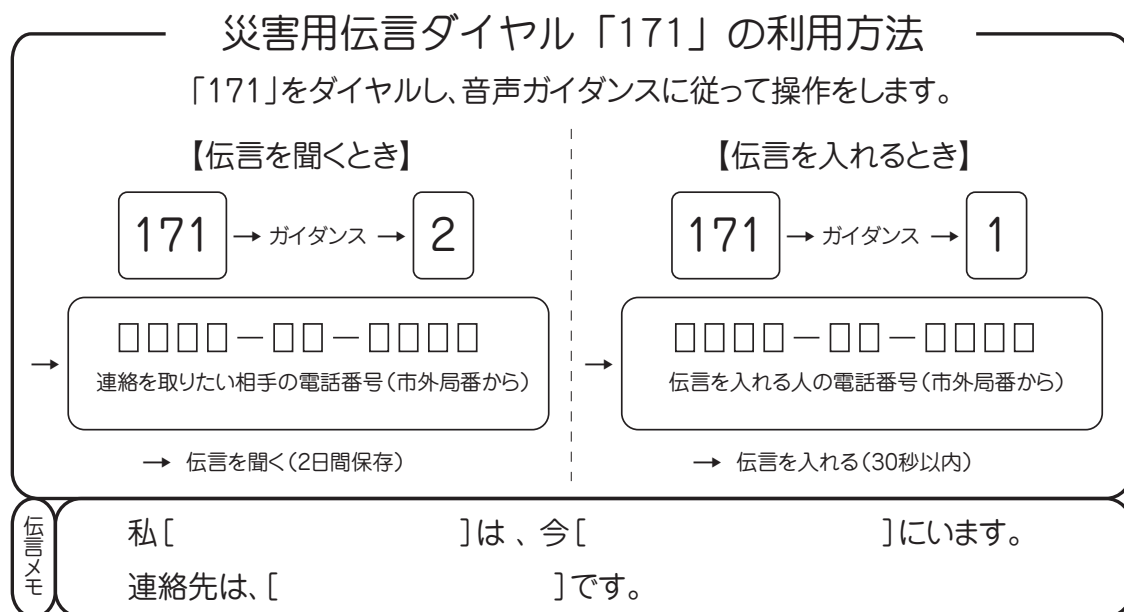
※2 「極めて危険」が出現するまでに避難を完了しておくことが重要であり、大雨特別警報が発表された際の警戒レベル5緊急安全確保の発令対象区域の絞り込みに活用することが考えられます。

緊急地震速報

- ・震度5弱以上を予想した場合に発表されます。
- ・テレビ、ラジオ、携帯電話、受信端末等で聞くことができます。
- ・速報から強い揺れがくるまで、数秒から数十秒しかありません。周りの人にも声を掛けながら、あわてず、身の安全を守りましょう。



毎月1日は訓練の日 実際に家族でダイヤルしてみよう



○家族の役割分担を考えてみよう

- 例) ・ドアを開ける
- ・ラジオ・テレビをつける
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

○家族の約束事

- ・我が家の一番安全な場所
- ()
- ・家族がバラバラの時の最終避難場所
- ()
- ・緊急連絡先
- ()

まとめ

～情報の活用の仕方を書き込みましょう～